



NGOサポート募金

「フィリピン台風緊急支援まとめて募金」

2013年11月～2014年2月分

活動状況報告書

目次

公益社団法人 アジア協会アジア友の会 (JAFS)	1	公益財団法人 ジョイセフ	10
特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター・ICAN	2	特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン	11
特定非営利活動法人 ADRA Japan	3	特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan)	12
公益財団法人 オイスカ	4	特定非営利活動法人 日本リザルツ	13
特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン	5	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン	14
特定非営利活動法人 グッドネーパーズ・ジャパン	6	公益社団法人 プラン・ジャパン	15
公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン	7	特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	17
特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (KnK)	8	特定非営利活動法人 メデュサン・デュ・モンド・ジャポン (世界の医療団)	18
公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会	9	特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン	19

公益社団法人 アジア協会アジア友の会 (JAFS)

活動地域	第1次支援：北サマール州（2町）、レイテ州（5町）、アンティーケ州（3町） 第2次支援：アンティーケ州パンダン町、ティビアオ町、バルバザ町
対象者	第1次支援：貧困層の被災者（2458世帯、12,290人） 第2次支援：漁師（145世帯、812名）
実施した活動概要	<p>第1次支援（2014年11月～12月）</p> <p>事前に教会、学校、自治体などから被災者情報を入手し、被災者で貧困層の世帯を抽出し、下記の内容にて物資配布を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食料：米、水、麺、缶詰、砂糖、栄養飲料、ミルク、ビスケット ● 生活物資：ソーラー懐中電灯、キャンバスシート、毛布、サンダル、薬、消毒薬、洗剤、歯ブラシ、歯磨き粉、蚊帳、蚊取り線香、タオル、石鹸、種等） ● 建築資材：（屋根材、釘、工具セット） <p>第2次支援（2014年1月～4月、現在継続中）</p> <p>2014年1月に復興支援案件形成のためにアンティーケ州を視察。台風の被害により漁のための船、エンジン、漁網などの漁業機材が壊滅状態であったことから、漁師と話し合った結果、船、エンジン、漁網などの漁業機材の支援を実施することに決定した。2014年3月から船建設を開始した。2014年4月末に船、エンジンなどを145世帯に供与することが出来た。船建設に関しては、受益漁師の参加及び技術支援により完成することが出来た。</p> <p>船建設・供与：140隻（小型ボート）5隻（大型マグロ漁船） エンジン：115台（小型ボート用）5台（大型ボート用） 漁網：75世帯（141個）、釣糸：85世帯（373個） 魚捕獲用のしかけ：（Fish Shelter）：10個（深海用）7個（近海用） その他、釣り針、浮、重しなどを支援。</p>
主な活動成果	第一次支援：2458世帯、12,290人へ支援ができた。 第二次支援：145世帯、812名へ支援ができた。 （第二次支援に関しては、漁業シーズン中にボートを供与することが出来たために、被災者の収入手段が途絶えることがなく支援ができたことと、漁業組合形成への機運が高まり、起案作りが受益者主導にて実施されている。）



食料・生活物資を受益者へ配布





完成した船と受益者の家族

特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター・ICAN

活動地域	フィリピン共和国レイテ州ダガミ町、トローサ町、ドゥラッグ町、マヨルガ町（※レイテ島東海岸部：タナウアン - マッカーサー間）	
対象者	レイテ島被災住民約70,000人	
実施した活動概要	<p>当団体は、本災害発生翌日より物資の調達を開始し、5日後にはレイテ島東海岸部の4つの町において食料や水などの提供を始めた。食料の需要が落ち着いた頃からは、被災住民が再び家族と自宅で安全に暮らすための住宅再建資材の提供や、学校教育の回復に向けた仮校舎の建設と子どもたちへの学用品の提供にも取り組んだ。2014年2月までに、食料9,811世帯分、住宅資材1,700世帯分、仮校舎25教室、学用品3,000セットの提供を行った。</p>	 <p>建設した仮設校舎と子どもたち</p>
主な活動成果	<p>本災害により、ほぼ100%に近い建物が被害を受け、通信や交通も遮断されて一時孤立状態に陥っていたレイテ島東海岸部の4町において、食料や水の提供によって9,811世帯の被災住民の空腹を満たすことができた。活動にあたっては、前日までに村の役員から村内の全世帯リストを提供していただき、自らも被災者である約50名の住民ボランティアが、物資の仕分けや積み下ろし、治安対策を担ってくれたことで、問題なくスムーズに、各世帯に公平に物資の提供を行うことができた。被災直後、現地では食料等の物資の略奪が相次ぎ、子どもたちが「助けて（Help!）」「食料がほしい（Give us food!）」と書かれた看板を持って国道沿いに立って通行車を追いかけていたが、当団体の活動開始後には、「HELP!」という看板は、「Thank you! ICAN」という看板に変わっていった。住民の笑顔も次第に増えていき、「食べ物が家にある安心感、私たちにはアイキャンがいるという安心感がある」といった言葉も頂いた。</p> <p>更に、住宅資材提供によって、当初は掻き集めた瓦礫やビニールシートで作った仮住まい又は半壊の校舎に避難していた人々が家を建て直すことができ、約1,700世帯が再び家族とともに自宅で暮らせるようになった。家だけでなく、現地では約90%の校舎が全壊・半壊状態にあったため、仮設校舎を建設し、被災によって所持品を殆ど失っていた子どもたちに学用品の提供を行ったことで、いち早く学校教育を再開させることができた。</p> <p>当団体がこのように迅速に被災者のニーズに対応できたのは、日本の皆様からのご寄付のお陰であり、被災者が物質的に満たされるのみでなく、「自分たちのことを想ってくれる人々がいる」と感じることは、大きな励みにもなった。</p>	 <p>学用品を受け取り笑顔の子どもたち</p>



特定非営利活動法人 ADRA Japan

活動地域	フィリピン西ヴィサヤ地方パナイ島	
対象者	フィリピン台風ハイエン被災者	
実施した活動概要	<p>ADRA は現地パートナーなどと協力しパナイ島にて被災者支援を継続している。まず、キャピツ州及びアクラン州にて、五人家族一週間分の食糧パックと浄化した水、衛生キットの配付。更にイロイロ州において被災者がおこなう漁具やボートの修理に対し現金を支払い、被災者の収入の再確保の一助を担った。また、被災コミュニティの減災に向けた活動を続けている。</p>	 <p>被災住民からの聞き取り調査の様子</p>
主な活動成果	<p>裨益者数：およそ14,900世帯74,500人 食料・水支援：食料・水の一時的な確保 衛生キットの配付：衛生的な生活の確保 早期復旧支援：収入の確保による生活再建の促進、減災活動によるコミュニティの災害へのリスクの減少</p>	 <p>被災者への水支援の様子</p>

公益財団法人 オイスカ

<p>活動地域</p>	<p>ネグロス島北部、パナイ島北西部、パラワン島中部</p>	
<p>対象者</p>	<p>上記被災地の住民・子供たち</p>	
<p>実施した活動概要</p>	<p>家屋倒壊など大きな被害を受けた、ネグロス島北部のサガイ市やマナプラ町、パナイ島北西部のアホイ町、そしてパラワン島中部にて、緊急支援として、雨露をしのぐための屋根の材料や家屋修理のための資材提供や保育所の修繕支援を行った。また、田畑も被害を受け収入もなくなった被災民に缶詰等の食料配布も行った。さらに、日本救援衣料センターとの連携協力により、ネグロス島北部のサガイ、マナプラなどの被災地住民に、27トン（約189,000枚）の衣料を配布した。</p>	 <p>屋根の材料となるトタンを配布。 ネグロス島サガイ市にて</p>
<p>主な活動成果</p>	<p>緊急支援を行う傍ら、被災地の山々の被害状況の調査も実施した。そして、被災地の水源林の木々も倒れ地滑りを起こすなど、危険な状態にあることがわかった。そこで、2014年度からは、復興支援として、耐風性の高い在来種を中心に被災地での植林事業を行う計画を進めている。</p>	 <p>食料を被災住民に配布。 パナイ島アホイ町にて</p>

特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン

活動地域	レイト島、セブ島、サマル島	
対象者	<p>73万人:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コメ・ココナツなどの小規模農家 ・ 小規模漁業者 ・ タクロバン都市部の貧困層 	
実施した活動概要	<p>初期の緊急支援として安全な水の不足や衛生状態の悪化が懸念されるなか、水の供給、衛生用品の配布、トイレなどの衛生設備の設置を行いました。復旧支援として水の供給を継続するほか、緊急雇用支援、農地の回復、農具や種の配布、漁船の修復支援を行いました。支援と並行して、被災住民の再定住や生活再建の課題について現状を調査し、政策提言を行っています。</p>	 <p>© Anne Wright/Oxfam Australia</p> <p>衛生用品セットを受け取った女性。石けん、タオル、歯ブラシ、寝間着、蚊帳などが入っている。</p>
主な活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害直後に水や食料、テントの配布を開始しました。 ・ 台風が襲来してから1か月の間に30万人以上に水浄化キット、簡易トイレや石けん、タオルなどを含む衛生用品セットを配布しました。 ・ 400トンの種子をコメ農家に配布しました。 	 <p>© Jane Beesley/Oxfam</p> <p>簡易トイレの使い方を示すスタッフ</p>



特定非営利活動法人 グッドネーバース・ジャパン

活動地域	フィリピン レイテ島タクロバン、東サマール州ギワン	
対象者	子ども、一般	
実施した活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急支援物資配布（食糧・衛生キット・蚊帳） ●崩壊した学校に仮設の教室（テント）を設置 ●授業に必要な机や椅子、学用品の配布 	
主な活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急支援物資配布 タクロバン <p>グッドネーバースはルソン島ソルソゴンに事務所を置くグッドネーバース・フィリピンと協力し台風発生直後に調査隊を派遣しました。調査後、初動対応として被害が最も深刻なレイテ島タクロバンにて食糧（米、缶詰、ビスケット、水など）、衛生キットを合計6630世帯に配布しました。</p> ●学習環境改善支援 ギワン <p>タクロバンでの物資配布後、グッドネーバースは東サマール州ギワンに拠点を移し、同様に食糧の配布を実施しました。ギワンでは多くの学校が損壊し、以前のように授業が行えない状況でした。なんとか授業を行っている学校もありましたが、半壊した校舎の屋根をビニールで一時的に覆って使用していたり、小さなテントを使って狭いスペースの中授業を行ったりと、学習環境は著しく低下していました。</p> <p>グッドネーバースはギワンでも特に支援を必要とする学校を選定し、計50張りの仮設教室（テント）を設置しました。このテントには約40人が授業を受けられるスペースがあり、通気性や耐久性にも優れています。以前は半壊した危険な校舎を使っていたり、スペースの狭さから短縮授業を行うしかありませんでしたが、仮設教室の設置で大幅な状況改善が見られました。また今回は仮設の教室を設置するだけでなく、台風で失った机や椅子、ホワイトボードなどの備品や、子ども達のための学用品（鉛筆・定規・消しゴム・ノートなど）の提供も同時に行いました。</p> <p>この支援によって1万人以上の子どもが、十分な広さと安全性を兼ね備えた教室で、通常どおりの授業を行えるようになりました。</p> 	<p>タクロバンでの物資配布。</p>  <p>仮設教室での授業。机などの搬入は子ども達も積極的にお手伝いをしてくれました。</p>


公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

活動地域	レイテ・南レイテ、東サマル、パナイ島	
対象者	およそ70,000世帯	
実施した活動概要	<p>被災者の緊急ニーズに応え、中長期的に復興支援を実施するために、まずは2013年11月から2014年1月までの3か月間を緊急フェーズ1と区切り、被災者の緊急ニーズ（食糧、避難所、飲料水、負傷者や病人の救護、衛生環境の整備）に対応。レイテ・南レイテ、東サマル、パナイ島の3地域の15,000世帯を対象に一時避難所と食糧以外の支援物資を提供、また5か所40,000世帯に、食糧を提供することを目標に支援を実施した。</p>	 <p>レイテ島オルモックで緊急支援食糧を配布しました（2013年11月）</p>  <p>CAREから配布された住居用修理道具セットで家を建て直すことができた女性（2014年2月）</p>
主な活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ●支援世帯数 およそ70,000世帯 ●食糧支援 50,563世帯、232,090人に食糧を提供。 全対象地域において、食糧支援を3回実施し、最終回では食糧等購入のための現金支給も行った。 ●支援物資 16,616世帯、64,633人に緊急避難セット（防水シート、設営具）、調理道具、マット、毛布、懐中電灯、蚊帳などの食糧以外の支援物資を配布。またレイテ島、パナイ島では2,000世帯以上に、緊急住居用修理道具セットを配布した。 ●支援方法 緊急ニーズに応えつつ、現地市場再開に伴い、復興支援としての現金支給や生計手段再建に向けた支援へと移行した。 	



特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (KnK)

活動地域	レイテ島タナワン、サマル島バサイ、マラブット	
対象者	被災した子ども、青少年約750人（9歳～17歳）	
実施した活動概要	<p>KnKフィリピン現地スタッフ4名が11月22日～11月28日に被災地に入り、現地調査を実施。その後、12月より日本人が現地に入り、実際の活動に向けて調整を開始した。3地域ではチルドレンセンター（仮設テント型）を設置し、被災した子ども・青少年に対して必要な教育資材を配布、教育、絵画や作文などの自己表現を可能とする活動を実施し、子ども・青少年を保護し、学習機会を提供した。また、子どもの家庭訪問を実施し、虐待などのケースについては、現地の社会福祉開発省などへ照会し、保護につなげている。</p>	 <p>チルドレンセンターに多くの子どもたちが通っている。</p>
主な活動成果	<p>これまで3地域で600名以上が登録し、活動に参加している。学校に通っている生徒のみではなく、不登校児、就学していない青少年（Out-of-School-Youth）などもセンターには通い、絵画などの自己表現活動や補習に参加している。</p> <p>現在までに8割以上の子どもの家庭訪問を実施しており、虐待などのケースに複数対応している。家屋が被災し、親戚と同居し始めた後に親戚から虐待を受けるなど、被災をきっかけとした虐待などもあり、今後も子どもたちの保護活動も継続していく。</p>	 <p>歌や踊りに子どもたちの笑顔が輝く</p>



公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

活動地域	フィリピン・サマール島エルナーニ町およびキナポンダン町	
対象者	台風30号（ハイエン）被災者	
実施した活動概要	<p>シャンティでは2013年11月中旬より、日本ではあまり報道されていなかったものの台風被害の大きかったサマール島東サマール州にて被害状況およびニーズの調査を実施しました。また、調査と並行して、同州エルナーニ町で食糧・蚊帳・鍋・下着などの生活支援物資を配布しました。更に、上記のニーズ調査に基づき、2013年末から2月末までキナポンダン町でトタン板・合板・釘・工具などの家屋再建用の資材を配布しました。</p>	 <p>エルナーニ町での生活支援物資配布</p>
主な活動成果	<p>台風ハイエンの被災地はフィリピン中部の広範囲に及んでいたため、被害状況が大きく報道されていたレイテ島のタクロバンなどに支援が集中しがちでした。中でもサマール島はアクセスが限られることやマスコミにはあまりとりあげられない地域であったため、支援から取り残される傾向にありました。そのような状況において、当会では東サマール州エルナーニ町の2村460世帯に対して物資配布を実施しました。特にお米以外の食材や生理用品などの生活支援物資を初めて受け取る世帯も多く、ニーズにあったタイムリーな支援につながりました。</p> <p>また、人的被害が少ないため支援から取り残された町の一つ、キナポンダン町の16村2,152世帯を対象に、家屋再建セットを配布しました。台風シーズンが続く中、国際支援団体から支給されたテントの中で身を寄せ合って暮らしている被災者の方々にとって、屋根や壁で雨風をしのぎ安心できる環境へのお手伝いをすることができました。</p>	 <p>キナポンダン町での家屋再建物資配布</p>



公益財団法人 ジョイセフ

活動地域	サマール州、東サマール州、レイテ州、イロイロ州、カピス州、アクラン州	
対象者	女性、妊産婦、新生児	
実施した活動概要	<p>ジョイセフは、現地パートナーであるフィリピン家族計画協会（FPOP：Family Planning Organization of the Philippines）を通じ、サマール州、東サマール州、レイテ州、イロイロ州、カピス州、アクラン州の6箇所に緊急オペレーションセンターを設立した。そして被災地の女性、妊産婦、新生児に必須のミニマム・イニシヤル・サービス・パッケージ（MISP）と呼ばれるリプロダクティブヘルス（RH）必須アイテムを現地で購入し配付した。</p>	 <p>妊産婦・授乳中の女性のための医療検診。1日に500人以上の女性が検診に訪れることもある。（サマール州タクロバン市）</p>
主な活動成果	<p>リプロダクティブヘルス緊急医療チームを編成し、保健医療活動（検診や、産前産後のケア、女性に対する暴力などに関する情報提供、家族計画キットの配付など）を計57回実施した。6州では、22自治体の中で430村（バランガイ）を対象に活動した。緊急支援が届かない女性、妊産婦・新生児には初めて検診であるところが多く、多くの妊産婦と新生児の命が救われ住民から感謝された。受診終えた多くの女性を精神的な不安を解消し、心理的な安心感を提供することができた。リプロダクティブヘルス・母子保健活動として、2014年3月末までに3264名の妊産婦検診、3789名の授乳中の女性に検診と保健教育活動を実施した。</p>	 <p>産後の検診を受け生まれた赤ちゃんが順調に育っていることに感謝する被災女性。（サマール州タクロバン市）</p>



特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

活動地域	フィリピン共和国ルソン島、レイテ島、サマール島、セブ島、パナイ島、ネグロス島の15の被災地域	
対象者	対象地域の子どもを中心とした被災者	
実施した活動概要	<p>チャイルド・ファンドは、これまでに、食料品・日用品等の支援物資の配布、家屋修復支援、農地に被害を受けた被災者への生計支援（野菜の種や種籾（たねもみ）配布、発電機のためのガソリン代支援など）を実施するとともに、15カ所に設置されたチャイルド・センタード・スペース（子どもたちの学びと遊びの権利を守り、こころと体の健康を支える場）で子どもたちの安全確保、こころのケア、栄養状態の改善につながる活動を実施しました。</p>	 <p>食料を受け取る子ども</p>
主な活動成果	<p>多くの被災地域で食事の内容や量が不十分なために栄養状況の悪化がみられる中、食料配布が地域住民の栄養状況改善につながりました。また、約200世帯が家屋修復支援や作物の種の配布支援を受け、生計手段の回復に向けて一步を踏み出すことができました。</p> <p>チャイルド・センタード・スペースでは、精神的なショックを受け、こころに傷を持った子どもたちへのケアにつながる遊びや活動が毎日実施され、約3,000名の子どもたちが参加しました。被災後の混乱の中で親が安心して子どもを預けることが出来る場として、犯罪などから子どもたちを守る役割も果たしました。</p> <p>【活動状況 URL】 http://www.childfund.or.jp/typhoon30.html</p>	 <p>チャイルド・センタード・スペースでの活動</p>



特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan)

活動地域	フィリピンのセブ島、レイテ島およびその周辺地域	
対象者	台風30号により甚大な被害を受けた、セブ島、レイテ島、およびその周辺の、障がい者を中心とした方々	
実施した活動概要	<p>被災直後には、緊急に必要とされる食料などの支援物資を配布しました。台風によって114万棟に及ぶ家屋が全壊または一部損壊したことから、被災者から家屋修繕の支援の希望が大きかったため、その後はトタン板や壁用合板などの修繕セットの配布を行いました。また、災害時に特に困難な状況におかれやすい障がい者の方々の安否確認と被災後の状況調査を行いました。福祉施設の修繕支援も実施しました。</p> <p>支援活動は現在も継続中です。</p>	 <p>離島などにはなかなか支援の手が届きません。左はヒロトゥンガン島の方々に支援物資を届けたAARの五十嵐豪（2013年11月23日）</p>
主な活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ●食料や生活必需品の配付：3,147世帯（約15,000人） ●家屋修繕セットの配付：約1,200世帯 ●障がい者戸別調査（障がい者の安否確認と状況調査）： 約3,200人対象に実施 ●障がい者協同組合の再建支援、及び障がい児施設の修繕支援等 	 <p>家屋の修繕セットを受け取り、感謝を込めて力強く手を握ってくれたロレンドさん（左）。現在の自宅は竹の柱にビニールシートを渡ただけです。右はAARの藤本矩大（2013年12月14日）</p>

特定非営利活動法人 日本リザルツ

活動地域	レイテ島タバngo市	
対象者	レイテ島タバngo市被災者の方々	
実施した活動概要	<p>2013年12月、台風ハイエン（台風30号）で多大な被害を受けた Tabango Municipalityの住民に緊急支援物資を配布し、生命の保全をはかる。2014年2月からは、台風ハイエン被害を受けたレイテ島で、多くの組織・団体が支援を行った島北東部タクロバン市周辺と比べて、支援の手が差し伸べられなかった北西部タバngo町の住民に対して支援活動を行った。内容は全住民に対して2回にわたる食料品（①米、缶詰等、②米）配布と全就学児童を対象とした高栄養食品の配布、及び台風にて建物に被害を受けた町唯一の病院とバラngイ・ヘルスセンターの修復工事を行った。また住民に対する健康診断サービスも同時に行った。</p>	 <p>住民に対する健康診断サービス</p>  <p>支援物資を配布している様子</p>
主な活動成果	<p>2013年12月からのプロジェクトでは、レイテ島の北西部にある Tabango Municipalityの13のバラngイに住む8,000世帯、約33,000を対象に、必要な支援物資（食糧等）を配布する。2014年2月からのプロジェクトでは、食糧に関しては、緊急時に直接資する支援と言う事で、様々なステークホルダーから感謝の声が寄せられた。また施設の復旧も保健・医療へのアクセスが格段に改良したと言う事で、様々な関係者から評価を得ている。</p>	

特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

活動地域	フィリピンサマル島およびレイテ島	
対象者	東サマル州とサマル州にて被災した5,000世帯とレイテ州パロ町の350世帯。さらに同州カリガラ町の690世帯と町内2つの保育園に通う児童及び保護者・関係者の約600人。	
実施した活動概要	<p>2013年11月から12月までに、台風被害が特に大きく、支援が不十分と言われていたサマル島南部の5000世帯に対し、生活物資を配布し、年末にはレイテ島の350世帯に、パスタや野菜の種などを支援。また、2014年1月から現在までに、レイテ島カリガラ町の690世帯に対し、住宅修復用の資機材を配布し、住民自らが参加する修復工事の技術指導を行っている。さらに3月からは、同町にある2つの保育園において補修作業を実施中である。</p>	 <p>サマル島ギワン町で支援物資を手渡す PWJ スタッフ</p>  <p>レイテ島パロ町における食糧パッケージ配布の様子</p>
主な活動成果	<p>サマル島南部の5000世帯に対し、米10 kg(1世帯6人、7日間相当)、豆1kg、乾燥魚1kg、イワシ缶詰6缶、食用油500 、ビニールシート、ゴザ、毛布、石鹼、水質浄化剤などの生活物資を届け、レイテ島の350世帯に対しては、パスタや野菜の種などを配布した。2014年1月から開始した住宅修復事業では、690世帯のうち76%ほどの世帯で修復が完了している（4月28日現在）。補修中の保育園では、屋根や梁が取り付けられ、現在外壁の塗装などを行っているところである。</p>	

公益社団法人 プラン・ジャパン



活動地域	サマル島東部と西部、レイテ島、セブ島	
対象者	約70万人	
実施した活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ●食糧の提供（39万5,000人分） ●仮設住宅（シェルター）キット提供（13万8,000個） ●給水キット9万5,000個（安全で清潔な水） ●通学キット6,100個 ●遊び、学習、心のケアのための支援（子ども2万人） ●女の子や女性への暴力を防ぐため、女性専用のスペース設置（400人） ●被災地域の再建にかかる仕事に被災者を雇用して、現金を支給するキャッシュ・フォー・ワークプロジェクト（1万6,000世帯） ●困窮する状況にある世帯への緊急措置として、無条件の現金支給による支援(約2,000世帯) <p>など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新情報はサイトをご覧ください <p>http://www.plan-japan.org/join/appeal/phil.html</p>	 <p>通学キットを支給され家に帰る子どもたち</p>  <p>手洗いの指導</p>
主な活動成果	<p>災害直後は、食糧や水と衛生の支援、通学支援のための学用品の支給などを通じて、被災地域の復興への立ち上がりを支援しました。</p> <p>現在は、災害後に居場所を失いがちな子どもたちが安心して過ごせるように「子どもにやさしいスペース」の設置を通じ、遊び、学習、心のケアを支援しています。</p> <p>また、2600人以上の保護者や子どもの支援に従事する人を対象にセルフケアと子どもとのコミュニケーションに関する講習会を実施して、子どもを支える立場の大人たちへの支援も行っています。</p> <p>大規模災害の被災地では、女の子や女性への暴力が頻発するため、様々な事件を防止するための活動も展開しています。</p> <p>レイテ島では、女性専用のスペースを確保して、400名以上の女の子と女性が利用しています。</p> <p>また、行政の関係者を対象にした講習を開催しており、サマル島東部では70人以上の自治体職員、レイテ島では約280人の自治体職員を対象に、女の子と女性に対する暴力を防止するための講習会を行ないました。</p> <p>プランは、虐待を受けている可能性のある子どもを救出するための手順などを策定して支援にあたっています。</p> <p>被災者の生活再建を支えるために、被災地域の再建にかかる仕事に被災者を雇用して、現金を支給するキャッシュ・フォー・ワー</p>	

	<p>クプロジェクトで1万6,000世帯を支援、さらに困窮する状況にある世帯への緊急措置として、約2,000世帯を対象に、無条件の現金支給による支援を行っています。</p> <p>これからも、5カ年にわたる復興支援計画を軸に、被災地の人々の回復力を支え、地域の復興を実現できるよう支援活動を続けていきます。</p>	
--	---	--


特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

活動地域	セブ島北部及びバンタヤン島等の周辺島々、レイテ島タクロバン市	
対象者	被災した児童とその家族（5000人）	
実施した活動概要	<p>セブ島北部及びバンタヤン島の被災家族への食料、生活用品の配布の実施、孤児の調査と保護、小規模農家への生計維持支援活動（種や苗木の支給）を実施しました。レイテ島タクロバン市の被災児童に対して、子どもの権利や人身売買について注意喚起するワークショップを行うとともに学用品の支給を実施しました。また、社会福祉開発省とともに孤児の調査と支援と今後の支援について話し合い、計画を立てています。</p>	 <p>タクロバン市で子どもへの子どもの権利についてと人身売買や搾取、虐待から身を守るためのワークショップ</p>
主な活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ●被災した学齢児童(セブ島北部、バンタヤン島、タクロバン市1500人)に学用品を配布したことで、子どもたちが学校に行くサポートができた。 ●被災した児童（タクロバン市1000人）に子どもの権利や人身売買について注意するようなワークショップを実施したことで、子どもが自身の身を守る術についての知識を深められた。 ●被災した400家族(セブ島、バンタヤン島、タクロバン市)に対して食料と生活用品を提供できた。 ●被災した小規模農家（セブ島北部）が、生計維持支援を通じて農作業を再開でき収入を確保するための足掛かりを得られた。 ●タクロバン市では社会福祉開発省（DSWD）と連携し、セブ島北部では現地民間組織と協力し、孤児や虐待を受けた子ども、心に傷を負った子どもの状況を調査し、保護が必要な場合はその受入手配を行った。またトラウマを負った子どもへのケアの仕方をタクロバン市の自治体職員30人に対してセミナーを行うことができた。 	 <p>現地スタッフによるセブ島北部とバンタヤン島への支援物資パッキング作業の様子</p>

特定非営利活動法人 メデュサン・デュ・モンド・ジャポン（世界の医療団）

活動地域	レイテ島の4自治体を拠点に、現地保健省の協働で20か所の医療施設支援 30か所以上の移動診療を実施	
対象者	被災した医療を必要とする人々 被災した医療機関・医療人材	
実施した活動概要	<p>移動診療チームが、被災した4箇所の自治体を拠点に活動を実施しました。各チームは全員フィリピン人メンバー（医師、看護師、メンタルヘルス専門家、助産師、保健省担当役人）で構成されました。</p> <p>プライマリヘルスケアに加え、PTSDの症状を発症している患者に対するカウンセリングのトレーニングを、現地のヘルスワーカーに実施しました。その他、タクロバンとカリガラの2箇所の主要病院の早期復旧支援として、建物の修復作業、電気工事等の支援を実施しました。</p>	 <p>移動診療の様子</p>  <p>診察を待つ人々</p>
主な活動成果	<p>発災直後に50万トン（約3か月分：1万人分）の医薬品等の緊急支援物資（慢性疾患医薬品キット、コレラ感染予防、その他簡易的な外科手術キット）を現地へ送りました。</p> <p>緊急移動診療における診察件数：6,461件（2014年1月中旬時点）、週平均923件、PTSDのカウンセリングトレーニングを46人のヘルスワーカーに実施しました。</p>	

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

活動地域	セブ島、レイテ島、サマール、ア克蘭、アンティーク、イロイロ、カピス、ネグロス	
対象者	台風30号（ハイエン）によって被災した712,420人	
実施した活動概要	<p>82,133世帯への食料支援、53,755世帯への水支援、約7,000世帯へのキッチンセット（鍋、フライパン、ボウル、5人分の食卓セット（ナイフ、フォーク、スプーン）、包丁、タワシ等）支援、55,454世帯への生活用具セット（毛布、蚊帳、ビニールマット等）支援、17,796世帯への住居補修に関わる支援（防水シートやロープ等）、約50,000世帯への衛生用品セット（入浴・手洗い用石鹸10個、洗濯石鹸4つ、歯ブラシ6つ、歯磨き2つ、生理用ナプキン2パック、下着5人分、爪切り、タオル等）支援、21,813人の子どもたちを対象にチャイルド・フレンドリー・スペース（被災した子どもたちが安心して遊び、専門家のカウンセリングを通じて心理的ストレスを緩和できる場所）設置による支援、1,740人の妊婦や乳幼児を持つ母親と、2,273名の乳幼児（5歳未満）に対し、安全に授乳でき、母乳育児や乳幼児の食事、健康や栄養についてのアドバイスやサポート、また、性差別による暴力を回避するための研修を受けられる「女性と乳幼児のためのスペース」を14カ所に設置した。※当該活動はNGOサポート募金はじめ、ワールド・ビジョン・ジャパンおよび世界各国のワールド・ビジョンを通じて支援いただいた募金により実施した活動です。</p>	 <p>ワールド・ビジョンから緊急食料セット等を受け取った被災者</p>
主な活動成果	<p>上記の活動により、具体的な生活環境や保健衛生の改善だけではなく、「チャイルド・フレンドリー・スペース」や「女性と乳幼児のためのスペース」の設置などを通して、被災された人々が困難な時期を脱するための支援を行うことができた。</p>	 <p>セブ島北部のタボゴンに設置されたチャイルド・フレンドリー・スペース</p>

以上